

1. 履修のてびき

1. 使命・教育目的・教育目標・ポリシー

(1) 使命

本学は、寄附行為の目的に準じ、人類の健康と福祉の維持向上に役立ち、国際的視野を持つ最良の医療専門職、教育者、あるいは研究者として活躍する人材の育成を使命とする。

(2) 教育目的

本学は、豊かな人間性を備え、人類共通の課題である健康の保持増進並びに疾病の予防と克服および苦痛の軽減に努める人材、変化する社会に対応し最新の知識と最良の技術を生涯学び続ける人材、および地域医療から世界に通じる研究開発にわたる領域で探究心を持って活躍する人材を育成するための教育を実践する。

(3) 教育目標

1. 生命の尊厳と人権の尊重を基本に、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重できる豊かな人間性を育成する。
2. 多様な人材と共同し、看護学や看護の分野で国際的に通用する新しい知識や技術を創造できる能力を育成する。
3. 科学的知識と倫理的判断に基づき、専門知識や技術を効果的に活用した看護実践ができる能力を育成する。
4. 地域社会の状況と変化を学び、多職種と連携し協働して人々のさまざまな健康課題に取り組むことができる能力を育成する。
5. 看護職として専門能力を自律的に探求し、継続的に発展させる基本的姿勢を育成する。

(4) アドミッションポリシー（入学者受入の方針）

●求める学生像

看護学部では、教育目的に沿った人材を育成するため、次の学生を求めます。

1. 人間の健康と生活の営みに関心のある人
2. 他者の気持ちや立場を理解し、思いやりをもってかかわることができる人
3. 看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力をもっている人
4. 他者とコミュニケーションをとり協力して行動できる人
5. 研究心をもち、自ら課題を見出して学ぶ意欲のある人
6. 看護学を学び、地域社会及び国際社会に貢献したい人

●大学入学までに身につけておくべき教科・科目等

看護学部では、入学までに高等学校等において、看護学を学ぶうえで基盤となる基礎学力と応用力のうち、特に次の教科・科目に関する能力や態度を身につけておくことが必要です。

1. 国語については、読解力、表現力、文章構成力
2. 数学については、「数学Ⅰ」「数学A」の知識に加え、論理的思考力
3. 理科については、「化学基礎」「生物基礎」の知識に加え、科学的思考力と探求力
4. 英語については、読解力、表現力に加えて、国際社会の人々と自らコミュニケーションを図ろうとする力
5. 地理歴史・公民については、世界史、日本史、地理、現代社会、倫理、政治・経済の基礎知識に加え、国際人として良識ある行動がとれる力

●入学者選抜基本方針

看護学部では、人材育成の目的を達成するため、学士力（①知識・理解；文化、社会、自然等、②汎用的技能；コミュニケーションスキル、数量的スキル、問題解決能力等、③態度・志向性；自己管理力、チームワーク、倫理観、社会的責任等、総合的な学習経験と創造的思考力）を身につけた看護職者を育成し、4年間で看護師国家試験、さらに保健師と助産師を選択した学生に各々の国家試験に合格するように教育します。入学者の選抜方法として、推薦入学試験（専願制、併願制）、一般入学試験、一般入学試験（センター利用）を実施しています。

1. 推薦入学試験

- 1) 専願制は、小論文試験により英語の読解力、日本語の表現力、論理的思考力を評価し、面接試験により意欲、コミュニケーション能力、協調性、地域に貢献する志望を見極め、総合的な評価・判定によって入学者を選抜しています。
- 2) 併願制は、小論文試験により英語の読解力、日本語の表現力、論理的思考力を評価し、面接試験により意

欲、コミュニケーション能力、協調性を見極め、総合的な評価・判定によって入学者を選抜しています。

2. 一般入学試験

英語、国語、数学または理科の学力試験により基礎学力の評価・判定によって入学者を選抜しています。

3. 一般入学試験（センター利用）

大学入試センター試験により基礎学力を評価するとともに、小論文試験では日本語の表現力、論理的思考力を評価し、面接試験により意欲、コミュニケーション能力、協調性を見極め、総合的な評価・判定によって入学者を選抜しています。

(5) カリキュラムポリシー（教育課程編成の方針）

教育目標に沿った人材育成のため、基礎科目、専門基礎科目、専門科目を積み上げる科目構成としています。

基礎科目は、看護の対象となる人間そのものへの理解を深める「人間理解」、その人間の生活の場である社会への理解を深めるための「社会理解」、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を理解するための「異文化理解」に分けて科目を配置しています。専門基礎科目は、看護に必要な科学的知識や医療に関する理解を得るため、「人体の構造と機能」、「病気と治療」、「保健と医療」の諸科目を配置しています。専門科目は、看護実践能力を有する人材の育成に必要であり、まず同能力の基礎となる「看護の基盤」、次に応用するための「療養生活支援」および「地域家族支援」を配置しています。さらに実践するための「統合」科目を配置し、段階的な学習に配慮しています。

保健師あるいは助産師の国家資格取得希望者には、各受験資格に必要な科目を選択できるように配置しています。一方、同希望者以外には、看護師に特に求められる実践能力をさらに高める選択科目として「看護実践発展」科目を設置しています。

授業の実施方策としては、①講義、演習、実習を通して、学生と教員による積極的な双方向型の授業、②自律性、論理性、創造性を育む「課題発見型学習」、「体験型学習」、③看護学実習や卒業演習（卒業論文作成）を通じての個別指導等の多様な教育方法の展開を図っています。

(6) ディプロマポリシー（学位授与の方針）

卒業までに所定の単位を修得し、下記の能力を有する者に、学士（看護学）の学位を授与します。

1. 生命の尊厳を守り、人権を尊重し、多様な文化を持つ人々の生き方や価値観を尊重した行動をとることができる。
2. 多面的かつグローバルな視点から看護に関する課題を探究し、新しい知識や技術の創造に取り組むことができる。
3. 看護学に関する基本的な専門的知識と技術を身につけ、個別の健康課題に対し、ライフステージや健康状態等を考慮した看護を実践することができる。
4. 地域社会における健康課題を把握し、多職種と連携し協働する必要性と方法を理解して、多様な課題の解決に取り組むことができる。
5. 自らのキャリア形成をみすえて、向上心をもって自己研鑽し続けることができる。

2. 教育課程・内容等

(1) 教育課程の概要

看護学部の教育課程は、【基礎科目】【専門基礎科目】【専門科目】に区分されます。基礎科目を「人間理解」「社会理解」「異文化理解」に分類し、専門基礎科目を「人体の構造と機能」「病気と治療」「保健と医療」に分類し、専門科目を「看護の基盤」「療養生活支援」「地域家族支援」「看護実践発展科目」「保健師科目」「助産師科目」「統合」に分類しています。

【基礎科目】

○「人間理解」

豊かな人間性や地域貢献能力を育成するために、看護の対象となる人間そのものへの理解を深めます。

○「社会理解」

人間の生活の場である社会への理解を深めます。

○「異文化理解」

地元地域だけでなく国際的な地域においても活動できる受容性を育みます。

【専門基礎科目】

専門基礎科目は、看護に必要な科学的知識や医療に関する知識を得るため、「人体の構造と機能」「病気と治療」「保健と医療」を配置しています。

【専門科目】

「的確な看護実践能力を有する人材の育成」に必要な専門科目は、その基礎となる「看護の基盤」を配置し、それを応用するための「療養生活支援」「地域家族支援」の科目と、さらにそれらを発展させた「看護実践発展科目」「保健師科目」「助産師科目」と、これまでの学びをまとめるための「統合」の科目を配置しています。学生が人々を総合的にとらえ配慮できる豊かな人間性と生涯を通して自ら学ぶ研究的態度を身につけることができるように構成しています。

このような教育課程を編成し、特定機能病院を中心とした地域での臨地実習を行うことによって、ひとつの地域の高度医療から在宅医療を一連に学べることで地域を見据えて個としての人々をとらえられる能力を図っています。このように育成された人材には、さまざまな地域で活躍できる能力が付与される特色があります。

分野を横断する教養教育である基礎科目の一部は、専門基礎科目と専門科目の教員が担当し、基礎科目から専門科目までつながりをもって配置しています。

カリキュラム構成は、基礎科目の「人間理解」「社会理解」「異文化理解」は主に1学年次に担当し、専門基礎科目の「人体の構造と機能」「病気と治療」「保健と医療」は、主に1、2学年次に担当し、個々の学生の個性と能力に合わせた教授を目指します。専門科目の看護実践の基盤となる知識・技術・態度を養う「看護の基盤」は主に1、2学年次に担当し、各領域の展開に必要な知識・技術・態度を養う「療養生活支援」「地域家族支援」は主に2、3学年次に担当しています。さらに、「看護実践発展科目」「保健師科目」「助産師科目」「統合」の科目は看護学の知識の統合と発展を目指し、基盤となる科目の進行に合わせて、主に高学年に担当しています。

(2) 各学年次の教育内容

ア) 1学年次

前期では、様々な考え方を身に付け、人間を「個から社会まで」理解するための教養教育である「人間理解」「社会理解」「異文化理解」に関する基礎科目を担当しています。また、医療人としてのマナー態度・考え方を学ぶために医学部と大阪薬科大学の合同授業の科目「医療人マインド」を必修として、開講しています。専門基礎科目は、正常な人体の構造と機能及び健康と健康障がいを理解することを目的とします。専門科目は、看護の基礎を理解するために、看護学概論を担当しています。

後期では、人間が社会生活の中で経験する健康と健康障がいを理解するための専門基礎科目を担当しています。また、人間社会における保健・医療・福祉に係る法制度、社会制度、医療制度とそれらを支える倫理等を理解するための専門基礎科目を担当し、さらに、これらと並行して「日常生活援助技術」「基礎看護学実習」「成人看護学概論」「母性看護学概論」を担当して専門科目へのスムーズな移行を図ります。

イ) 2学年次

年次を通して、「病気と治療」の各科目や「フィジカルイグザミネーション」等の専門基礎科目、および専門科目の各領域（基礎看護学、急性期成人看護学、慢性期成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学、公衆衛生看護学）の必修科目を担当しています。助産師国家試験受験資格希望者には、助産師科目の一部を担当しています。医療の専門職の連携の意義と現状について学ぶために、「医療人マインド」と連結し新科目「専門職連携医療論」を必修として平成30年度より、開講しました。

ウ) 3学年次

前期には一部の専門基礎科目と専門科目として各領域の必修演習科目と「災害看護論」「チーム医療論」を担当しています。後期には主に成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護学の臨地実習と組み合わせて「看護実践と理論の統合」を担当しています。保健師・助産師国家試験受験資格希望者には、「保健師科目」「助産師科目」の一部を担当しています。

エ) 4 学年次

既習の実践と理論を統合することによって、自己の看護観を育み、専門職としての自覚を高め、責任を遂行できるように専門科目として統合の「統合看護学実習」を配当しています。また、臨地実習の締めくくりに医看融合ゼミを医学部 6 年生とチーム医療について合同討議と発表をしています。さらに、学士課程教育の締めくくりとして、これまでの学習を通して感じている各自の課題について教員の指導の下で研究テーマを絞り、卒業論文を作成・発表することにより研究の基礎を学ぶ「卒業演習」を配当しています。保健師・助産師国家試験受験資格希望者には、「保健師科目」「助産師科目」の一部を配当しています。